

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	33	大学等名	関西国際大学
テーマ	テーマⅠ・Ⅱ複合型		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、高次なアクティブ・ラーニングとするインターンシップにおける「課題解決型」、「課題探究型」インターンシップの導入、関西国際大学版ディプロマ・サプリメントである「学修成果サマリー」の開発、さらに、インターンシップの事前学習・現地実習・事後学習を通じた学生の自己評価能力向上に繋げる PDCA の仕組み構築と他の場面への反映など、各取組の実施・推進が進められている。なお、補助期間終了後の目標である「評価チューニングの汎化」「学修成果の可視化を通じた学びのプランニング」は本事業に深く関わるものであり、本事業の成果と課題を踏まえ大学全体の教育改革をより一層加速させることが求められる。

事業の具体的な取組の進捗状況については、学外経験学習である AP 型インターンシップの「課題解決型」から「課題探究型」への発展、テーマ設定を含めた学生の主体的取組の促進、改善を図ったルーブリックによる評価システムの活用など、その都度課題に対応するべく変更を加えながら実施されている。また、AP 型インターンシップにおける企業の事業内容等による評価点の相異への対応として、事前の基準値の明確化がなされることに加え、事前事後におけるアセスメントテストの実施及び学修成果サマリーの試験的導入・作成等、様々な取組を実施し、学修成果の可視化に努めていることは評価できる。必須指標「アクティブ・ラーニングを行う専任教員数」については実績値が 100%であり、「アクティブ・ラーニング科目のうち必修科目数の割合」については目標値を超える実績を上げているが、「学生の授業外学修時間」など目標値未達の指標については、全学としてより一層の対応が必要である。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、学長プロジェクト方式を採用し「AP 事業推進プロジェクト」として事業運営の推進力を高めるとともに、AP 事業推進ミーティング、学長ブリーフィング等を活用して円滑な事業運営に努めており、今後の進展が期待される。インターンシップについては、教員と企業受入担当者の評価チューニングの場や成果報告会・協力者会議における産業界からの意見を基に学内で議論し、インターンシップのルーブリックの改訂、「KUIS 学修ベンチマーク」自体の改訂など、課題への対応が適切に図られている。さらに、補助期間終了後については、取り組むべき具体的項目が作成され、既に着手されているものもあり、事業の継続が期待される。

事業成果の普及については、出口（卒業）からの大学改革アプローチとして着目される取組であることから、他大学等、産業界双方へのより一層の積極的情報発信・共有が求められる。また、参画している一般社団法人における経験学習に関する共同プログラムの開発も期待される。